



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：フランコップ号による武器密輸事件

(11月5日付現地各紙)

5日付イスラエル各紙は、4日イスラエル海軍が臨検したドイツ船籍フランコップ号について報じている。概要は以下のとおり。

1. 10日前、シリアを目的地とするコンテナを積載したイラン船が同国のバンドル・アッバース港を出港し、エジプトのドウミヤット港に寄港し、同コンテナをドイツ船籍のフランコップ号に積み替えた。イスラエル海軍が入手した同船の航海予定表によれば、同船はシリアのラタキア港を目指していた。

2. イスラエル海軍はドウミヤット港を出航した直後の同船を探知し、3日夕刻にイスラエル海軍職員が同船と連絡を取り、通常の貨物検査を依頼した後、同日夜中にIDF（イスラエル国防軍）の特殊部隊が乗船した。乗船に際しては、乗組員からの抵抗はなかった。

3. コンテナからは、中距離ロケット数千発、直径107～122ミリのロケット弾、カラシニコフ用弾薬などが見つかり、少なくとも中距離ロケット3,000発以上、兵器類約300トンが含まれていた模様。イスラエルとのミリタリー・バランスを変えるようなロケット発射台や最新の武器は発見されていない。

なお、2002年にイスラエルが拿捕した武器密輸船カリンA号に搭載されていた武器は約40トンであった。フランコップ号は4日、アシュドッド港に寄港し、イスラエル海軍がコンテナ内の武器の詳細について調査を行っている。

4. IDFによれば、搭載されていた武器の量はヒズブッラーが現在保有している量の約10%を占め、イスラエル北部への集中的砲撃を数週間可能にする。（1ヵ月との報道もある）

5. 諜報機関筋は、フランコップ号に搭載されていた武器の大半は2年以上前に製造されたと見られ、英語表記が確認出来るもののイラン製で、直径122ミリのロケットはロシア製であると説明している。又、IDFは、木箱で隠している状況から、武器の輸送先はレバノンのヒズブッラーとの見解を示した。

6. コンテナには、イラン・イスラム共和国海運会社を表すIRIS（Islamic Republic of Iran Shipping Lines）のイニシャルが記されていた。同社は国営会社で、イランの核開発及びミサイル開発に関する部品を輸送しているため、国連安保理が指定する対イラン制裁の対象リストに掲載されている。同社の幹部は、シリア、ハマス及びヒズブッラーへの武器輸送を担当する革命防衛隊に所属するクドス部隊の司令官が務めている。

7. 約1ヵ月前には、紅海を航海中だったドイツ船（イランへ貸与中）が、又、2009年1月にはロシア船が、それぞれシリア向けに武器を搭載していたために拿捕されている。フランコップ号の拿捕を含めて、過去2年間にわたってイランの武器拡散を防止しているのは、IDFの特殊部隊シャイエレット13である。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799